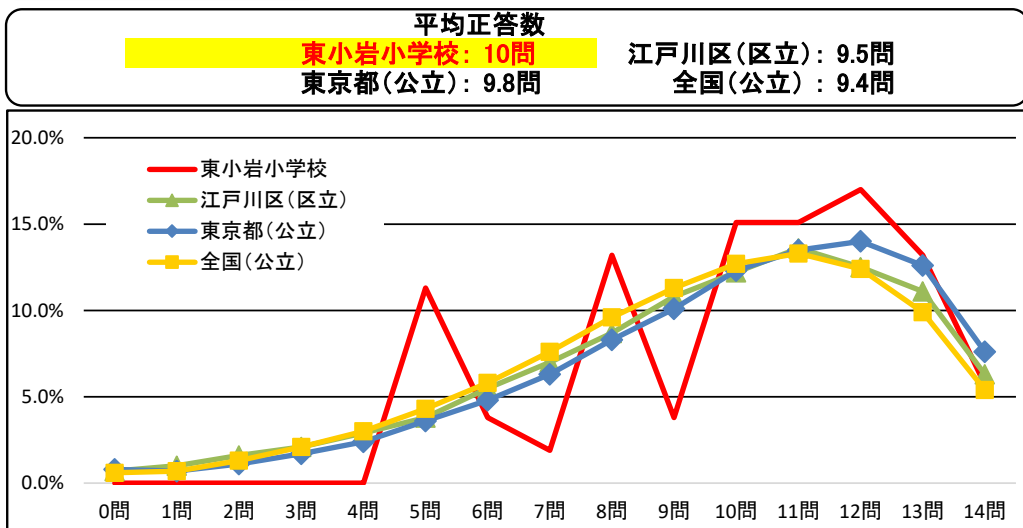


令和7年度全国学力・学習状況調査 結果分析表【国語】 東小岩小学校

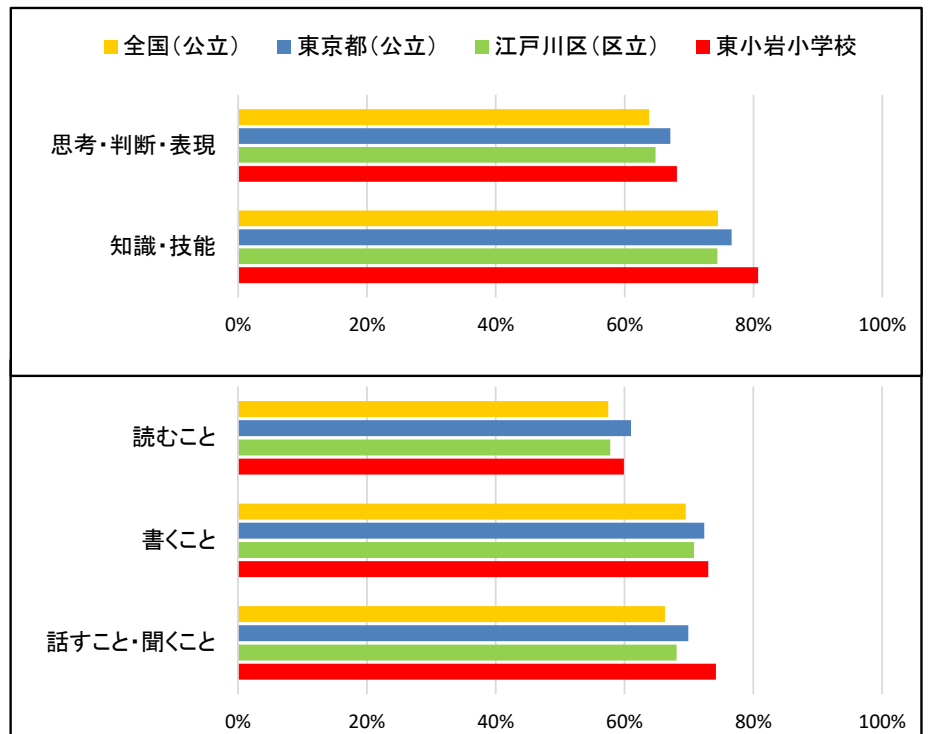
正 答 数 分 布



【平均正答率の差】

東小岩小学校	72%
江戸川区(区立)	68%
東京都(公立)	70%
全国(公立)	66.8%
都との差(ポイント)	2.0

「領域別」の結果

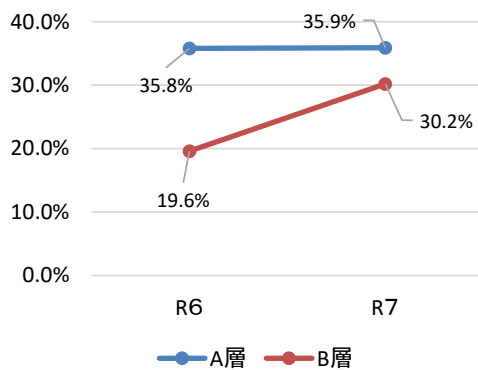


四分位における割合（都全体の四分位による）

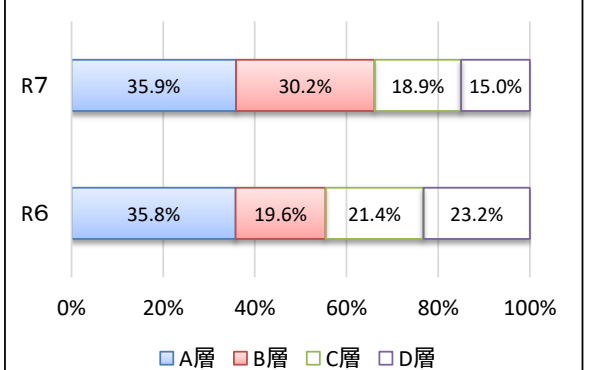
国 語	上位 ←		→ 下位	
	A 層 12～14問	B 層 10～11問	C 層 8～9問	D 層 0～7問
東小岩小学校	35.9%	30.2%	18.9%	15.0%
江戸川区(区立)	30.0%	25.8%	19.5%	24.7%
東京都(公立)	34.4%	25.8%	18.4%	21.4%
全国(公立)	27.7%	26.0%	20.9%	25.4%

四分位とは、データを値の大きさの順に並べたとき、児童数の1/4、2/4、3/4にあたるデータが含まれているのはどの集合かを示すものである。上の表では、四分位によって児童をA、B、C、D層に分けた時のそれぞれの層の児童の割合を示している。なお、本データで示している四分位は、東京都(公立)のデータを基に定めている。

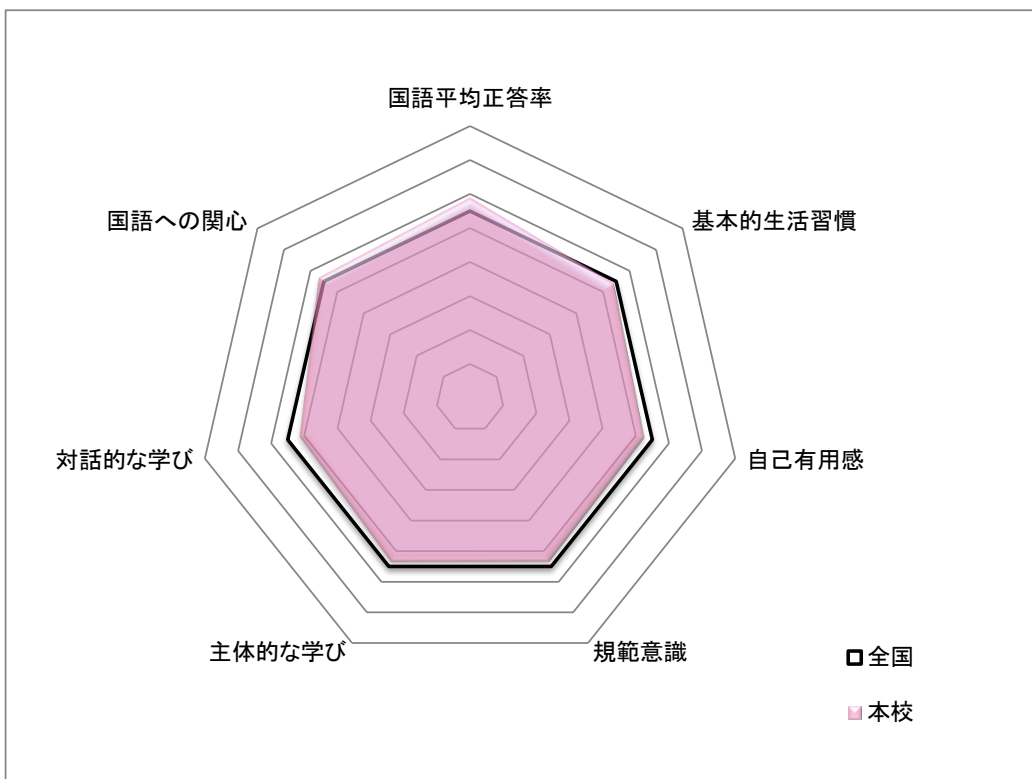
AB層割合の推移



AB層割合の前年度比



各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。



《チャートの特徴》

国語の平均正答率と国語への関心は、全国平均をやや上回っているが、他の項目はやや下回っている。
特に対話的な学びについては、児童が対話によって学びが深まっていると感じている割合が低い。授業内で考えを表す機会を意図的に設定したり、対話を活発にするための話型を生かしながら進める取り組みを継続していきたい。

《家庭・地域への働きかけ》

・家庭学習の取り組みを引き続き見守り、指導していただくよう、保護者会や学校だより、学級だよりなどを通して働きかける。
・区学力調査の結果も活用し、個々の課題を家庭と共有していく。

《現状把握》

●AB層の割合と取組内容について

・A層は横ばいであるが、B層が昨年度より10ポイント以上増えており、AB層を合わせると全体の66%を占めている。
・領域別では「読むこと」の項目のみ、都の平均を下回っている。説明文の読み取りでは、文章に書いてあることから分かることを児童が考え、意見を共有させるようにしている。

《学校の取組》

・教員の指導力向上

・国語科の説明文を中心に校内研究に取り組み、年間5回の研究授業を通して、授業力の向上を図っている。また、文章の精査・解釈をする力と児童の対話等による表現力の育成に重点をおき、児童の実態に合った指導計画の作成や有効な手立てについて研究を進めている。
・模擬授業を行い、発問の精度について議論したり、実際に使うワークシートの有効性などについて検討したりしている。

・基礎学力の保障

・4～6年では週1回、「よむYOMUワークシート」の読解問題に取り組んでいる。問題に回答するだけでなく、問題文に書かれている内容に対する自分の意見や考えを100文字から200文字程度の作文にまとめ、記述力の向上につなげている。

・学習習慣の確立

・音読や漢字練習などを家庭学習で日常的に取り組むよう設定している。
・自主学习として、興味や関心をもったことを調べ、ノートにまとめてくる課題を週1回以上取り組んでいる。

・AB層の育成

・授業内で、ねらいに迫るような児童の考えを全体共有したり、他者への説明などに役立てるようにしたりしている。
・学習のまとめの活動での作品作り等では、ルーブリックを作成し、よりよい内容になるような視点を教師と児童とで共通理解を図りながら、質を高めている。
・学力調査やワークテストなど、解答の解説を行うことにより、文章の着眼点などについて指導している。